

発表論文:

遠山さつき, 臼杵扶佐子:

3年間の振動刺激治療がもたらした慢性期胎児性水俣病患者のADL能力の向上.

作業療法ジャーナル 47(10): 1185-1189, 2013.

<https://www.miwapubl.com/products/detail/1482>

慢性期神経疾患患者の痙縮や運動機能低下に対する効果的なリハビリテーション治療は困難で、積極的な治療というより維持のためのリハビリとなっているのが実情です。本論文は、ハンディマッサージャーを用いて足底に振動刺激を短時間与えるという簡便かつ非侵襲的な振動刺激治療が、下肢の痙縮を改善し、日常生活動作(ADL)の改善につながった慢性期胎児性水俣病患者の報告です。

私たちはこれまで、家庭用ハンディマッサージャーを用いる振動刺激治療が、慢性期の胎児性水俣病患者の疼痛の軽減のみでなく痙縮にも有用であること、さらに、痙縮改善効果は、これまで報告されてきた痙縮を起こしている筋に直接振動刺激を与えるよりも足底から与えた方が、その効果が高いことを報告してきました。

遠山さつき, 臼杵扶佐子 (2011) 振動刺激による疼痛および痙縮の緩和がADL改善に有効であった胎児性水俣病患者の1例. 総合リハビリテーション 39: 1091-1094.

Usuki F, Tohyama S (2011) Vibration therapy of the plantar fascia improves spasticity of the lower limbs of a patient with fetal-type Minamata disease in the chronic stage. BMJ Case Reports doi:10.1136/bcr. 08.2011.4695



家庭用ハンディマッサージャーを用いた足底の振動刺激治療

今回の論文では、振動刺激治療を3年間継続した結果、痙縮のさらなる改善効果が得られ、足の背屈運動の改善により立位や移乗動作が安定し、起居動作が早くなるなど、振動刺激治療の継続がADLの改善につながったことを報告しました。このハンディマッサージャーを用いる足底の振動刺激治療は、侵襲がなく、安価で、家庭でも施行可能であり、胎児性水俣病患者の痙縮のみでなく、発症後2年以上経過した慢性期脳血管疾患患者の痙縮にも有用なことを確認しています。私たちは、現在、足底からの振動刺激治療をさらに有効なものにするための最適な方法について、引き続き検討を続けています。